イブに降る雪

やすだのりあき　さく
やすだ　ぱせり　え

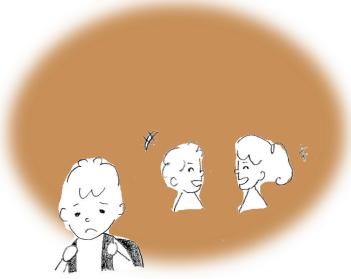
もうすぐ、クリスマス。みんなは、サンタさんに会ったことはあるかな。白いひげに、赤い洋服のおじいさんだったかな。

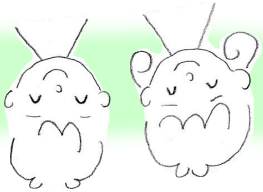
今日は、「イブに降る雪」っていうおはなしをするね。ある男の子が、初めてサンタさんに会ったときのおはなしだよ。

今年も、十二月になりました。学校の友だちは、みんなうきうき。パーティの約束をしたり、プレゼントの話をしたり。気にしないつもりだけど、マサオは少しさびしくなります。

マサオのうちには、おとうさんがいません。おかあさんは、いっしょうけんめい働いています。それでも、お金がなくて、困っています。だから、クリスマスが来ないんです。

ほんとうは、ほしいおもちゃはあるけれど。パーティにも、行ってみたいけれど。それよりも、早く大きくなって、おかあさんを助けなきゃ。ほしいものは、それから買えばいい。そう思って、いつもがまんしてきました。





妹のタエコも、プレゼントをねだったりしませんでした。いつもニコニコしています。きっと、マサオのまねをしているんです。でも、ときどき、ちょっとかなしそう。タエコはまだ、うまくがまんできないのかな。

がまんしているタエコを見ると、とてもかわいそうで。なんとかして、タエコを喜ばせたくて。なのに、何もしてあげられない。マサオは、くやしくて、しかたありません。

明日は、いよいよクリスマス。マサオのうちは、いつもと変わらない一日です。おかあさんが仕事から帰ってきて、三人でごはんを食べて。勉強して、ふとんをしいて、あんなでねました。

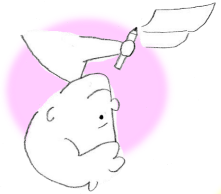
「マサオくーん、マサオくーん。」夜中になって、マサオは目を覚ましました。外をだれかが、呼んでいます。おかあさんもタエコも、ぐっすりねています。二人を起こさないように気をつけて、窓の外を見てみると…。

いちめんに、雪が積もっています。雪は、つぎからつぎへと、まいおりてきます。ふんわり、ふんわり、ふんわり降ってきて。も う、窓の外は、何も見えなくなりました。

やがて、雪が消え、窓の外はきらきらした光につつまれています。その光の中に、別の世界があらわれました。どうやら、うさぎの村のようです。うさぎの男の子が、あんなの反対をあしゃって、ほうけんに出かけるところです。マサオは要さも忘れて、ずっと見つめています。

いつのまに、眠ってしまったのでしょう。朝早く目を覚ましたマサオは、外を見てみました。ふしぎなことに、雪が降ったようすはありません。「おかしいな、夢でも見ていたのかな。」と、マサオはつぶやき、あることを思いつきました。

大急ぎで、ノートを取りに出します。夜中に見た世界のできごとを、書きはじめます。クレヨンで、絵も描いていきます。ことばや絵が、つぎつぎと生まれてきて。まるで、えんぴつやクレヨンが、生きているかのよう。最後に、全部のページをのりづけして、一冊の絵本になりました。



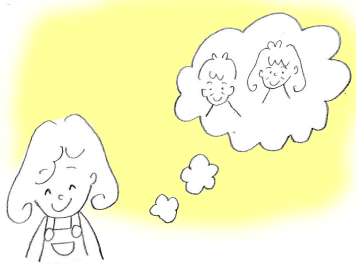
絵本にリボンをぬんで、プレゼントのできあがり。「タエコ、メリークリスマス。」初めてのプレゼントに、タエコは大喜び。マサオが読んであげると、夢中になって聞いています。マサオが読んであげると、夢中になって聞いています。心配そうな顔をしたり、おどろいたり、そんなタエコを見て、マサオは、ときどきうれしくなりました。

つぎの年も、イブの夜に、マサオだけの雪が降りました。光の世界には、こんどは、タエコがあらわれました。たんじょう日に、未来からの手紙を受け取っているようです。いったい、何が起こるんだろう。マサオは、光の世界の物語を、じっと見つめています。

朝、マサオの手から、また新しい絵本が生まれました。マサオが読んであげると、タエコは、もう大喜び。「ほんとうに、たんじょう日に手紙が来るかなあ。」今から、待ち遠しくて、わくわくしています。

ふしぎで、すてきなプレゼント。
来年のイブもきっと、マサオだけの雪が降ることでしょう。

マサオくんのところにやってきたサンタさんは、どんなすがただったかな。そう、白いひげも赤い洋服も、出てこないよね。ほんとうのサンタさんは、もしかしたら、わたしたちの目には見えないのかもしれないね。

え、「いまも、マサオくんのところに、サンタさんは来るのか」って？　どうかなあ。

わたしのうちでは毎年、クリスマスの日に、おばさんが遊びに来るんだ。そして、お父さんが、絵本をみんなに読んでくれるんだよ。きっといまも、サンタさんは来ているんだね。